

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	出来る事の芽を摘み取らず、ひとりひとりがその方らしく生きていく事の支援に取り組んでいる。管轄である包括を中心に、地区社協や民生委員、近隣の方々との繋がりを意識した取り組みを行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	職員自身が迷った時、理念に立ち返り、ご入居者様の為、最大限の努力をするよう心がけている。また、日々理念の共有を行い全職員が意識し、日常生活支援に活かしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	地区社協主宰の[サロン]への参加を行わせて戴き、結果や感想をご家族や包括、地区社協の方々にフィードバックしている。また、ご本人様とご家族様が幸せである事を、運営推進会議等でお伝えする事で、理念の浸透を心がけている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	ほぼ毎日の散歩の折などに、近隣の方々と挨拶を交わしている。また、新たにGHの看板を目立つ場所に製作した事により、まず、GHという存在を知って頂き興味を持って戴く事から始めたい。		この建物がGHである、という事を近隣の方々に認識して戴き、地域に根付いた活動を展開していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会のイベントの手伝い(ゴミクリーン作戦)をはじめとして、様々なイベントのお手伝いをいつでもさせて戴ける体制である事を、町会長や、班長にお伝えしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>実際に介護保険の申請方法の相談や、高齢者向けサービスの説明を適宜行い、地域の高齢者への支援も念頭に置いたSV展開を行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回、初回評価の為、評価項目を職員全員が熟読し、目的や意義を理解するよう努めている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、ご家族様や、近隣の皆様との絆やサービス向上の為、有機的に作用している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、更新申請時や、その他、相談したい案件があった折には必ず文章にし提出、アドバイスを戴いている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、職員に対して、成年後見制度等について資料提供や、学習の機会を設け、必要なご入居者様の親族には情報提供を行っている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>拘束・虐待委員会を設け、職員へ学習の機会を提供し、虐待が決して起こらないGHを約束している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>丁寧な説明と、今後、いつでも相談に応じる事を約束している。実際、退所後のご家族から、相談が寄せられる事もある。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご入居者様からの不満や苦情に対しては、その場で関わった職員が対応し、管理者に報告、改善に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月10日前後の請求書送付時、管理者からご家族様へご入居者様の詳細な様子を書いた手紙と、かわら版という新聞を発行し、写真でもGHでの生活や外出の様子をお伝えしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。また、不満や苦情に関しては、管理者が迅速に動き、その内容を傾聴、即対応し、納得して頂けるまで誠意を持ち説明・必要時には謝罪している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談や、ヒアリングの機会をその都度作り、風通しの良いGHである事を目指している。現場の実践者である職員の話に傾聴し、提案の機会を設けることにより、職員のモチベーションの向上や学習のきっかけ、介護の質の向上へ繋がるよう勤めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者・主任を中心にフレキシブルな対応が出来るよう、勤務調整は迅速に行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現状、退職した職員が2名であり2人共に在職期間が短く、家庭の事情(故郷の親の介護)であった為、ご入居者様へのダメージは少ないものと思われる。異動に関しては、開所後、半年の間に2回行ったが、平屋作りの為、両ユニットへのご入居者様や職員への行き来が頻繁に行え、合同のイベントも多い為、ダメージは最小限であると思われる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画の作成・研修参加の為、その日の勤務者数やスキルアップに繋がる様、効果的な研修内容の開拓に努めている。		職員の研修に対する意識の高揚、モチベーションの向上を目的とすべく、より効果的な研修計画を介護事業のモデルとして構築する
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡協会等に加入し同業者と交流する機会を設けている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な面談やヒアリングにて、問題点を抽出し解決している。また、外部への交流にて、刺激や情報不足によるマンネリ化を防ぐよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の理念・方向性を明確化し、浸透させる事により、組織全体が共通の目的・目標に向かって邁進していけるよう努めている。		介護業界における、効果的な人事考課のシステムを構築を検討する。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員サイドから心を開き、不安や環境の変化に伴う周辺症状の緩和に努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	数件のGHを見学されて、当GHに入居したいと即決なさる方が、多い事からも、第一印象は良いものと思われる。また、インテークの段階では、ご家族様の気持ちを傾聴・共感・受容する関わりを通し「このGHなら安心して家族を任せられる」と思って戴けるよう尽力している。ご本人様・ご家族様双方を支援する姿勢で臨んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたって、ご家族様とご本人様が「何をGHへ望んでおられるのか」に対して、敏感になり、相談・適切な助言を行うよう努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、ご本人の面談と、GH見学は必ず行って戴くようにしGHの説明・スタッフ・ご入居者様の紹介を行っている。GHに馴染むまでは数週間かかるが、必ず落ち着いてくる事をご家族に説明し、ご入居後の様子をお知らせしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全ては、ご入居者様が中心である事を全職員に周知徹底し、行う事が出来る事は行って戴き、人生を共に歩んで行くという姿勢で臨み、行事関係は、ご入居者様から、その方法をお教え戴いたり、相互が支えあいながら毎日の生活を営んでいる。職員が悩み事等を相談し的確なアドバイスを頂戴する事もある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、GHにご入居戴いた事で、まず安心して頂き、その後も継続的に連絡を取りながら、協力体制を仰いでいる。ご家族様がGHのボランティアにみえて下さったり、面会の折に、庭でとれた柿などをお持ちになりながら、昔のご本人様のご様子をお話下さる事も多い。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅で認知症の方を精一杯介護なされてこられた事を労い、GHにご入居戴いた事で、更に程よい距離感の中、お互いが幸せでいられる関係作りに配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の馴染みの理髪店の利用の支援や、親しい方の面会、逢いたい方に職員と一緒に尋ねて行く等の支援を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員がユニット内の人間関係を把握し、レベルに合わせたレクの提供や他ユニットとの行き来を行えるような工夫を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご入居者様が退去した後も、ご家族からの電話相談等には適宜応じている。特に在宅復帰された方は、担当の包括と情報交換している。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の様々な要望が言いやすい環境作りに努力し、その実現に向けてのコミュニケーションを大切にしている。ご本人様の行きたい場所へお連れしたり、食したいものを召し上げて戴いたり工夫している。本人の意向確認が困難な場合であっても、尊厳を大切に、ご家族様と相談しながら意向に沿った生き方の支援を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時・ケアハウス時・有料時の時のCMやご家族様から情報提供して戴き、情報を全職員が把握出来るよう努力している。馴染みの習慣や癖も含め、人生の先輩として敬う姿勢を忘れず関わっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の力量に差はあるが、ご入居者様の状況の把握と情報の共有の為、毎朝、カンファレンスを開催している。可能性の芽を摘まず、出来る事は行って戴き、各専門職が総合的にその方を把握し、目先の支援のみならず、エビデンスに基づいた長期的なスパンの支援を行う努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各専門職（介護・医療・リハビリ）の意見とご本人様、ご家族様の意向を統合し、ご入居者様が、より良い人生をお送り戴けるような計画を作成するよう努力している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大体、半年を目処にケアプランの見直しを行っているが、入院 退院時等状況の変化に応じ、CMが中心となり見直しを行っている。		半年では、期間が長すぎる方も多いため、もう少し細やかなプランの見直しが必要かと思われる為、今後の改善点としたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過はPCに入力し、重要なトピックスやご家族様とのやりとり、その他の詳細な情報は手書きの個人ファイルを利用している。その他、業務ノートや排泄チェック表、バイタル表を共有しつつ質の高い介護実践の糧としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各専門職の専門性を活かし、ご本人やご家族、ご親族の要望に応じ、各種の相談や、運転免許の更新手続きの支援等の対応を行っている。画一的なケアではなく、認知症を抱えた個人を尊重し、多角的に支援するよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の要望やGHからの提案として、図書館の利用や、近隣の陶芸教室へのお稽古、地域の【地区サロン】を利用している。また、消防訓練の際は近隣所轄の消防署に協力を仰ぎ協働での支援を展開している。また、地域包括へ相談し、民生委員や地区社協への顔繋ぎを行って戴いた。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、ご本人からのリクエストは無いが、必要時他のSVを利用する事は検討事項とす。他事業所のCMから当GHのCMへの相談も多い。また、在宅時に担当されていたCMがGHを訪ねて来る事も多い。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時、権利擁護や後見人制度等についてCMよりご家族へ情報提供を行っている。また、包括へはご本人様が主体性を持ちつつ地域の一員として生活を営めるよう、相談・支援戴いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が設立したGHであり、ご家族も医療面の充実を望んでの入居希望が多い。しかし、重篤な疾患を抱えておられるご入居者様は、専門医に定期受診して頂いており、在宅療養支援診療所と専門医との連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症を専門としている医師との連携は無いが、同法人の医師が認知症に関しての知識・経験を有し、定期的に健康管理を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師である為、日々、24時間体制で健康管理や、主治医・薬剤師との密な連携を取っている。職員への医療教育の面も看護師が担っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	搬送から入院中は、提携病院のMSWや担当医、ご家族様との情報交換を行っている。退院後は、日常生活をスムーズに送る事が出来、健康管理を充分行い、ご本人様とご家族様が安心出来るように支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の契約書を取り交わし、ご入居の早期段階で主治医より、今後起きうる可能性の病状等を説明している。ご本人様・ご家族様・ご親族様が後悔しない最期のあり方について意見の聴取を行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々、ご入居者様の健康管理を行う中で、今後の変化の予測に関しての、スタッフ教育を行っている。主治医とも重度化した場合の対応と看取りについて情報交換を行っている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が、在宅復帰された事例では、その方の住んでいる地域担当の包括と現在も情報交換をしている。他の施設へ移られた場合は、担当の相談員等へGHサマリーをお送りし、ご本人様・ご家族様の環境の変化によるストレスが最小限に抑えられるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>排泄一つとっても、ご本人様ひとりひとりの個性と羞恥心に配慮し、同性介助を希望される場合は、意向に沿った方法を取っている。個人用のファイルは施錠出来る書庫を用意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>深い認知症の方や失語に近い方の真実の想いを受け止め、引き出し、尊厳を大切に、その方の表情や、しぐさ・態度に敏感になり、自己決定の支援を行うよう努力している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その方の残存能力を生かしつつ、自宅としての当たり前の1日を送る事が出来るよう支援している。また、9人の集団生活がストレスにならないよう、ひとりの時間を作る事が出来るよう工夫し、【ご入居者様が幸せである事】を念頭に開く事を重視している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけの理容院のある方は付き添い、ご友人がカットしてくれていた方はGHに継続していらして頂き、訪問美容を望む方には訪問で対応する等、個性を大切にしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>カロリーや栄養のバランス、また職員が食事のメニューを考え、買出しに必要な時間と労力をその分ケアに活かす為、昼・夜は食材配達業者へ依頼している。ご入居者様と共に仕度と後片付けを行っている。買出しには毎日出かけ、朝食は職員が考え、ご入居者様の意見を反映した食事としている。外食レクも頻回に計画し、生活にメリハリをつけている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒や、飲み物は自由に行っている。おやつに関しては、その日にご入居者様が召し上がりたい物を伺う日と、食材宅配業者のメニューとのバランスを考え、職員から提案する日がある。その他、職員と一緒に手作りおやつを作り楽しんで戴いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	各ユニットの排泄委員が中心となり、排泄の満足が得られるような働きかけを行っている。羞恥心や尊厳に配慮しケアコンファレンスを基に観察・アセスメントを実行している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	在宅での入浴習慣を大切に、午後浴、夜間浴、その他と希望を伺いつつ実施している。個別性(同性介助が良い等)を配慮し、ゆったりとした満足感の得られる入浴支援を心がけている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	在宅での睡眠リズムを伺い、昼寝の習慣がある方は妨げる事無く、日常生活を送る事ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	過去の生活歴を基に、ひとりひとりにGH内での役割をお持ち戴き、潜在能力を引き出す努力をしている。楽しみごとに関しては、季節ごとの行事や、ご家族様やご本人様から伺い、図書館の利用等の継続、気分転換の為の外出等の工夫を行っている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	金銭管理については、契約時に理解を求め、紛失しても良い程度の金銭をご本人様にお持ち戴く事の上承を得ている。現状は、定期的にご家族様からお小遣いとして金銭をご本人様へ手渡され、ご本人様が外出の折に、好きな物をお買い求めになる事が多い。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	雨天で無い限りは、全ご入居様が散歩・日光浴を行う事が出来るよう支援している。買い物は毎日の日課として行い、翌朝の食材の買出しや、個人の日用品の購入等を行っている。また、買出しも、ご本人の馴染みの店で行う事等を配慮している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	お墓参りはご家族様がお連れ下さっているが、希望があれば、(例:生家を訪れてみたい等)叶えられる態勢は整っている。		ご家族様も含めた温泉旅行を計画している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や、ご親族様、ご友人との手紙や電話のやり取りは自由に行って戴いている。暑中お見舞いや、年賀状をお送りする支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は自由に行って戴いている。その際のお茶とお茶菓子の用意は、必ず行い、おもてなしの心配りを全職員が徹底して行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わない事とその根拠を全職員が理解し、徹底している。また、職員のストレスを最小限にする為、管理者はヒアリングや情報収集を行い、改善可能な部分は改善し、無理無しのシフトの作成、ストレスの発散の為の余暇活動の為の連休取得の促し等を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関施錠は行っていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は、ご入居者様の安全確保の為の職員の意識付けの核たる事として、周知徹底している。ご入居者様の次に取るであろう行動を予測し、見守り、行動を制限・否定しないケアを実践している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	GHは日常生活の場である事から、危険な物を排除するのではなく、ご入居者様が安全にその方らしい暮らしを営んでいく為の工夫を行い、起こりうる危険性について、常に職員が意識し、対処法までの取り決めをマニュアル化している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員が救命救急講座を受講した。左記事項に関してもマニュアル化している。		今後も定期的に緊急時の対応を行う事が出来るよう学習の機会を作り、突発的な事項の折、冷静に対処出来るよう訓練していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご入居者様の(いつもと何かが違う)という事にアンテナを張り、危険予測出来るよう意識付けしている。左記事項に関してもマニュアル化している。		上記に同じ。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火に関しては、マニュアル再作成中である。職員には非難場所の周知を行っている。ご家族様への連絡方法等を家族会で検討・周知し、ご家族様へご入居者様を安全にお渡しできるような方法を考えていきたい。		上記に同じ。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様とは常に情報交換を欠かさず、率直なリスクの説明を行っている。事業所の方針と、ご家族様の要望とを上手く組み合わせながら、ひとりひとりに、その方に合ったGHでの安全な生活のあり方を作り上げていっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員に「自分達が介護しているのは全員何らかの疾患を持つ高齢者であり、急変がいつ起きてもおかしく無い」為、観察の目を養う・いつもと何かが違う、という勘や気付きを大切に、異常の早期発見に努め、緊急時のマニュアルを作成している。24時間、医師・看護師と連携を取る事が出来る体制を取っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は受け持ち制となっており、担当のご入所者様に関しては、疾患・服薬の理解は出来ている。が職員の力量により、各ユニットの全入居者様のデータまで把握しているとは言いがたい。		今後の課題として、介護と医療の連携を図っていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤使用が習慣化していた方に対しては、看護師が観察し、自然排便に繋がるような働きかけを職員に促し、主治医に薬剤の中止、又は変更を相談している。(水分摂取量、腹部マッサージ、体を動かす事、繊維質のものを摂取する事等)介護職員は、心地よい排泄の為の工夫(胃結腸反射を受けた定時誘導・きばる事の出来る姿勢等)を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に一度の訪問歯科の利用や、職員の指導により、口腔内の清潔を維持することがいかに大切な事であるか、ご入居者様や、職員に啓蒙活動を行い、臨機応変な対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回の体重測定をはじめ、水分制限のある方以外は自由にお茶等を摂取できる環境を整えている。これまでの生活習慣を大切に、食事摂取表を基に栄養バランスを考えた支援を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	衛生・感染症委員会が中心となりエビデンスに基づく感染症に対する対応マニュアルの徹底を図っている。中でも、うがい・手洗いの徹底は、面会のご家族様や、ご来客の皆様にもお願いしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	GHなので衛生管理は基本、家庭をベースに行っているが、集団生活である事、高齢者を相手にしている事を念頭に、安全な食材の使用、調理器具のメンテナンスに気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口である駐車場や内外の玄関周り、ウッドデッキには、園芸委員会が中心となり、季節に合わせた草花を植え、彩り良く、近隣の方々にも気軽に立ち寄って戴ける雰囲気作りに努めている。春～初秋にかけては、水やりが、ご入居者様の役割の一つとなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を大切に飾り物や花などを飾り、自宅のように居心地の良い空間である事を意識している。が、異食のある方もおられるため、配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には独りで過ごす事が出来る場所は無い。ご利用者様同士でくつろぐ事の出来る場所は、ソファーやウッドデッキ等工夫した構造になっている。		共用空間での工夫については、今後の努力課題としたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの物や、思い出の写真等、ご自分の部屋であるという事が認識出来、過ごしやすい空間であるように工夫出来るよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度計を用意し、換気やご入居者様の体温調節に配慮し、居室の空調も含めてこまめに管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にとって「当たり前」の生活をお送り戴けるよう、配慮し、過剰介護にならないよう自主性を重視している。各専門職でその方なりの自立を考え共有し、ご本人様を中心とした環境を支援する努力をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活の基本であるGHの構造を分かりやすく表示し(例:トイレ 便所)暮らしの中で不安を抱いたり、混乱を招く事の無い様、配慮している。また失敗しても、さり気なくフォローし、分かる力を最大限に引き出す声かけや促しを行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広いウッドデッキがある為、ご本人様に洗濯物や布団を干して戴く、取り込んで戴く、日光浴をして戴く、花や野菜を育てる等の役割を担って戴き、有意義な空間として機能している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

【千葉県】グループホーム 風早の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員同士が馴れ合いではなく、お互いに進歩・発展・向上出来るような関係作りを重視している